

心はいつも  
旅する  
加藤九祚

# ユーラシアンホットライン

1999.2.28  
VOL-13

## 九祚さんおめでとう!

### 加藤九祚先生が南方熊楠賞を受賞

南方熊楠  
世界的な博物学者。和歌山県出身。その頭脳と行動力は、近代日本の黎明期である明治時代、そして、大正、昭和の初期の時代にあつて、幅の広い国際的な業績の数が残し、柳田国男をして「日本人の可能性の極限」と評させた。

ユーラシアンクラブ名誉会長である加藤九祚さんが「南方熊楠賞」を受賞した。40人の候補者の中から「最もふさわしい人物」と評価され、審議委員全員一致で決定したという。まさに快挙。4月に和歌山県田辺市で開かれる授賞式には、発掘中のウズベキスタンの仏教遺跡から一時帰京して臨み、「中央アジアの仏塔の起源とその変容」と題して記念講演を行う予定。加藤先生は「私がこの賞にふさわしいかどうかは別に、これまでで最もうれしい賞だ」と喜んでいる。クラブでも、今年の調査終了を待って受賞を祝う会をしたいと考えている。

加藤先生は、長いシベリア抑留を経て独学で、中央アジアシベリアの先駆的研究者となり、新分野の後進研究者の拠り所となる多くの著作、翻訳書を出版し、国立民族学博物館在任中に刊行した「北東アジア民族学史の研究」で学術博士、その後ロシア科学アカデミー名誉歴史学博士、ウズベキスタン共和国文化賞芸術研究所名誉博士の称号を授与。「天の蛇—ニコライ・ネフスキーの生涯」で第3回大佛次郎賞を受賞するなど伝記の分野でもユーラシアと日本を視野に入れた仕事を続けてきた。学術上の蓄積だけでなく、著作に一貫する味わい深い文体と人間味豊かな人柄で全国に加藤ファンがいる。

南方熊楠賞の選考理由は「・加藤氏はアカデミズムに所属しない在野の研究者として出発し、ユーラシア内陸部全域にわたるフィールドワークをおこない、古今東西の文献資料を渉猟して研究をまとめてきた。南方熊楠は良く知られるように、独学で博物学を学び在野にしながら、世界に通用する大学者となった知の巨人である。若い頃にアメリカやイギリスに滞在したこともあって、単なる博覧強記の人ではなく、異文化についての見聞も豊富で、体験的に「比較の視点」を大切にされた学者だった。文献の翻訳から始まった加藤氏の学問も、現地調査を加えたものに広がり、そのフィールドワークがシベリアから中央アジア全域と広いこともあって、熊楠のように、「比較の視点」を常に持ち続けている。また、定年で研究機関や大学から離れた今日においてなお、現地調査を続ける原動力は、ひとえに「知的探求心」からと承っているが、その姿勢は在野にありながら終生研究に打ち込んだ南方熊楠に通じるものがある」となっている。

加藤先生の喜びのコメント：私の生涯でこの上ない光栄です。この賞は南方熊楠氏の偉大な学者の生涯と業績を記念し、後進を励ますために創設されたものと理解しています。私は自分を天才南方先生と比べる気持ちなど毛頭ありませんが、強いて共通点を探せば「独学」と「学問好き」であると思います。戦時中のため学業半ばにして入隊し戦後はシベリアで捕虜として満28歳まで過ごし、その間独学でロシア語を勉強しました。帰国後は出版社に勤務しながら、書物と旅行を通してシベリア、中央アジアの民族学と考古学の研究をしました。最近、ウズベキスタンで仏教遺跡の発掘を始めました。砂粒のように小さなことでも、学問にオリジナルなものを加えたいと願っています。私は南方先生の学問に対する情熱と環境保全に対する熱意を体し、南方賞に恥じないように今後も精進する覚悟であります。

## ◆1998年度文化講座終了

3月7日、杉山正明氏の文化講座「マルコポーロの謎」が開催されました。杉山氏は、現在伝えられる「東方見聞録」が写本ばかりで原本があるこ

とを前提としたマルコポーロをめぐる議論の特徴を紹介しました。これで昨年度の講座が全て終了しました。4月以降の講座の受講申し込みを受け付け中です。どうぞお申し込み下さい。

## 【感想】—1998年インターカレッジ文化講座の終了に当たって 久保 明生（講座受講者/クラブ会員）

3月7日に昨年11月27日の振替えの講座（杉山正明講師）があり、前・後期各9回、計18回にわたった壮大な1998年文化講座がめでたく終了した。改めて、講師名、演題の一覧表を眺め、記憶をよみがえらせると、つくづく意義ある講座であったと思う。このような講座が完遂されたことは、すごいことではないかと驚きの念を持ってしまう。企画し、実行された大野さんに対して、心からお礼とねぎらいの言葉を述べ、そして称えたい。それとともに毎回受付を担当されたYさんの献身に対しても、同様に心からお礼とねぎらいの言葉を述べたい。もちろん、各講師の方々に対して、深い感謝の意を表したい。最終回の講座が終わった今、私の心はとても明るいのである。締めくくりとなった3月7日の講座は、私にとって、大変印象的な、意義あるものだった。知識・情報を得ることは大いに重要だが、わからないことをわからないと言い、疑わしいことを疑わしいと言うことが、まさに基本的に大事なことだと気づいたのである。昔になったが、卒業式の講話において某先生が「知らざるを知らずとなす。これ知れるなり」という言葉を与えて下さったのを思い出したのである。そして、心の中に光が射し込み明るくなったという次第である。1999年の文化講座がやがて始まる。講師の命をかけたあるいは身体を張った思考や行動の成果というべき話は、受講者である私たちの心を打ちさわやかな気分させる。講師と演題の一覧表を見て、期待で胸を膨らませている。

## 【報告】カニパーティでリスペクさようなら

## 伊集院 隆介（クラブ運営委員）

小江戸と言われる川越でキルギスの留学生リスペク君を見送る会が行われ、20人以上の人が集まった。ウズベクやモンゴルの留学生も参加し、大野さんの弟さんのお店で、大野さんの御両親まで参加していただき、誠に家族的=ユーラシアン的な雰囲気の中で会が無事終了した。リスペクさんには長い間クラブのために尽くしていただいて本当にありがとうと言いたい。また会を進めるにあたって、キルギスによく行かれる杉山さん、誠実な人柄そのものの司会ぶりの井口さんらのご努力で無事なごやかに会を終えることができたことは、他のクラブの活動を通じても言える。また加藤さんはあいにくの不在だったが、栗原さん率いるモンゴルチームの存在は欠かせない。山田さんや土居さんは出席することで彩りを添えた。また繰り返すことになるが、大野さんのお父様には皆、深く敬服している。

今回に限らず、さながら維新前後に輩出した建国の俊英達に値する留学生との交流を通じて大野さんの目指すところは、21世紀をになう人材の育成だろう。講座に片野、上井、則君らを積極的に参加させているのもそうした目的の一環だろう。歴史を忘れ、短い視野しか持ち得ず、白人の真似をして満足し、アジア人としての自覚を失い、果たして日本は何をしようとしているのか、大野氏は憂いつつしかし単純な民族主義、軽薄なアジア主義をも退ける。人の話を聞き、重厚な態度を保持する海外の若きエリート達ともみ合うことで、この”ユーラシアンクラブ道場”でみっちりケイコをつけ、国際感覚を研ぎ澄まさせようと、若者の将来を考えている、そんな大野氏。しかしその理想的な体制を整えるまでには、あらゆる人々の協力をあおがなければならない。幸い大野氏の周囲には杉山さん、井口さんはじめ、豪華な料理でもてなして下さった実弟の樋口社長、友好的で台頭著しいモンゴル集団、偉大なるお父様、そして世に先駆けて作り上げた信用と外国のきずなは、また国内に良く反響してくる。前橋の友人、後藤さんの参加は、ユーラシアンクラブに新しい一ページを刻みつつあるのだ。美しい娘さんたちと共々、喜ばしいことである。新潟の有力者たちも大野さんの声かけを待っている。

最後はカラオケでしめくり、大陸的なカラッとした陽気なお別れ会だった。未来を見つめるユーラシアンクラブならではのものであろう。リスペク君、いつかまたお会いできる日を。

## 【動向】地球と話す会

「20年かけてシルクロードを走ろう」と1993年から毎年、シルクロード自転車旅行を実施している地球と話す会が、今年8月、新疆ウイグル自治区のカシュガルからキルギス共和国に入ります。自転車の走行距離850キロ、天山山脈の4千メートル級の山並みの峠を越えることとなります。国境ではユーラシアンクラ

プの現地会員、カリジン アクマタリエフ（映画監督）と今月 3 月留学を終え帰国するリスpekさんが一行を迎えます。

問い合わせは：〒186 国立市富士見台 2-37-9-301 電話 042-573-7667 まで

### 【予定】●新潟・コミュニケーションフェスで打ち合わせ

ユーラシアンクラブは、昨年一昨年と新潟県小出町でユーラシアコミュニケーションフェスを開催してきました。今年は 7 月 31 日、昨年一昨年と継続したユーラシアコミュニケーションフェスが開催される予定です。しかし今後のフェスはこれまでどおりでいいのか。今後のフェスのあり方を再検討することになりました。4 月 3 日、小出郷文化会館で、地元会員及びこれまでのフェス参加者、キルギス、サハの留学生らを受け入れていただいた方々と懇談します。会員諸氏のご提案もお受けします。ご意見をお寄せ下さい。

## ユーラシアンクラブ親睦旅行検討中

クラブでは、ユーラシア諸民族の理解、親睦、協力の活動の中で元留学生や現地の友人を通じた親睦旅行を重視して毎年続けていますが、今年も実施したいと思います。現在、下記のコースで実施の条件を検討中です。整いましたらお知らせします



ウズベキスタンツアー シルクロード文化村建設ウズベキスタン視察旅行

キルギスタンツアー 天山山脈西端にある東洋の真珠と言われるイッシククル湖一周

サハツアー アンドレイ、ナターリヤの故郷を訪ねる旅

アムール沿海州ツアー ナナイ、ウデゲの友達と交流するシカチアリヤン、ビキン川エコツアー

中国・小興安嶺ツアー 岩間さんの薦めるオロチョン村視察ツアー

### 【短信】

#### ◆ユーラシアンクラブが世界室内陸上参加、中央アジア選手を応援

3 月 5 - 8 日群馬県前橋市で開催された世界室内陸上をユーラシアンクラブ群馬の会員、モンゴル、キルギスの留学生が見学、出場選手と交流しました。受け入れたのはユーラシアンクラブ群馬代表の後藤康子さん。交流に参加したのは青山学院大学の留学生モロドガジェフ リスpekさんと中央大学大学院留学生の M. ビレグさん。千葉県松戸市の会員神田博さんが同行し、室内陸上の開会式に参加し、キルギス、カザフ、モンゴルの選手に面会、市内の寺院を見学するとともに一緒に食事、出場する 60メートル走などの選手を激励応援しました。

#### ◆オドバルコンサート

群馬県下のクラブの活動発展の一環として 2 月 26 日、オドバルさん（内モンゴル、歌手）と鳥日娜（ウリナ・東洋大学留学生、モンゴル舞踊者）が前橋グランドホテルでのミニコンサートに参加しました。今後同ホテルで継続する計画の写真展、ギャラリートークを伴うフォーラムに先だって開催されたもので、初の試みは好評でした。

#### ◆映画「ツェルゲルの人々」上映会（2 月 28 日）が実施され、80 人あまりが鑑賞。

# はなたのーが私にしてみませんか

## 写真展 ユーラシア源流私が出会ったユーラシア開催



ユーラシアンクラブは、昨年秋の新潟県奥只見の山小屋合宿で決めた写真展を以下の予定で開催します。今後、群馬県下を始め新潟ー東京沿線を中心としてショートスピーチ、撮影者、作家、大使館関係者、ユーラシア専門家のフリートークやコンサートなどを伴うユーラシアンフォーラムとして展開していく予定です。

そこでクラブの会員の皆さんからも写真を募集することにします。募集要項は以下のとおりです。応募写真の点数は制限しません。

写真展開催には、ウズベク大使館、モンゴル大使館、カザフ大使館、在日サハ代表部のほか地元教育委員会、自治体の後援のほか写真家、交流団体の協力を得て、ユーラシア諸民族の暮らしや文化の理解に役立つ催しにしたいと考えています。

### 写真展開催の趣旨

明治以来多くの日本人が知ることなく、いわば見過ごしてきたユーラシア諸民族の歴史と文化及び今日の暮らしを紹介し、相互理解・交流の一助となることを願い、この度写真展「ユーラシア源流」を開催します。現地で生活する人々に光を当て、その暮らしの一端を伝える写真作品を公募し、プロカメラマンの作品と併せて展示します

また、在日留学生が自国の文化を紹介するギャラリートークでは、ユーラシアを撮影したプロの写真家、中央アジアやモンゴル等の留学生がフリートーク参会者との意見を交換したり、ミニコンサートを実施します。

## 写真募集要項

**応募資格** プロ/アマ、国籍民族、年齢を問いません

**募集期間** 1999年4月10日(土)まで

**送付先** ユーラシアンクラブ

**作品内容** ユーラシアにおけるロシア、中国という大国の狭間に暮らす遊牧、狩猟、漁労民族に関わる地域で撮影されたもの カラー・モノクロいずれも可

**送付形態** 四つ切りサイズの紙焼(約250×300mm) フレーム不要

**添付書類** 指定用紙に必要事項(氏名、連絡先、作品のキャプション等)をもれなく御記入の上、作品に添付/同封して下さい

**作品返却** ユーラシアンクラブで保管、非営利の写真展等で使用させていただくためご返却いたしません

**展示方法** お送り頂いた写真作品を、主催者側がフレームに収めます